2026年1月11日付ジュニアえひめ新聞

学校賞

明神小学校（久万高原町）全校8人模擬「甲子園」

2年連続の学校賞を受賞した久万高原町明神小学校では、全校8人が月1回集まり、俳句の鑑賞会をしています。その一環で2学期から「俳句甲子園」を始めました。

12月中旬、全校が赤白2組に分かれて向かい合い、試合開始。白組「夏まつりフランクフルトのマスタード」の句に対し、赤組は「字余りだけど、リズムが楽しい。他の食べ物にしなかった理由は？」と切り込みました。白組は思い出の情景を力説します。

赤組は自句「秋半ばあれた畑の赤ピーマン」が、手入れされず熟れ過ぎたピーマンが残り「寂しそうな畑の様子」と主張。「あ」の韻を踏んでいることもアピールしました。

討論の出来栄えについて先生たちが判定、僅差で赤組に軍配が上がりました。

意見を交わす中で、児童たちは「省ける言葉はないか」「語順や季語はこれでいいか」と熟考。言葉へのこだわりが高まります。チーム戦なので先輩に導かれ、低学年も堂々と発言できるようになりました。

5年[redacted]さん(11)は「俳句についてみんなで仲良く話せるのが楽しい。自分の句の良いところを見つけてもらえたらうれしい」とほほ笑みました。

（豊田さやか）

掲載許可番号：d20260113-09